

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/5/21作成 (株)新出光

【概況】＜WTI原油67ドル台になるも反転し下落＞

●14日、米最大級の石油パイプラインが7日にサイバー攻撃を受けて操業を停止した問題で、運営会社である燃料送油管会社コロニアル・パイプラインは12日、パイプラインの稼働を再開したと発表しました。同パイプラインはテキサス州からニューヨーク港を結び、石油精製品の45%を輸送しており、米国の一部の州でガソリン価格の高騰が懸念されていましたが、稼働再開の報を受けて、供給不安が後退し、原油が売られました。

●17日、欧米では新型コロナワクチンの接種拡大を受け、行動規制が緩和されています。経済正常化の進展に伴い、エネルギー需要見通しにも楽観的な見方が広がり、原油が買われました。ただ、米のパイプラインの操業開始や日本や台湾、インドなどのアジア地域では新型コロナの感染拡大に歯止めがかからないことからエネルギー需要見通しに慎重な見方もあり相場の上値は重かったようです。

●18日、新型コロナウイルスの米死者数は昨年3月以来の水準に落ち込んでいます。新規感染者数も5週連続で減少し、ニューヨーク州のクオモ知事は17日、ワクチン接種を完了した人は19日以降、大半の公共空間でマスク着用不要との指針を発表しました。ただ、アジアでの感染拡大の影響が引き続き相場の上値を重くしたようです。

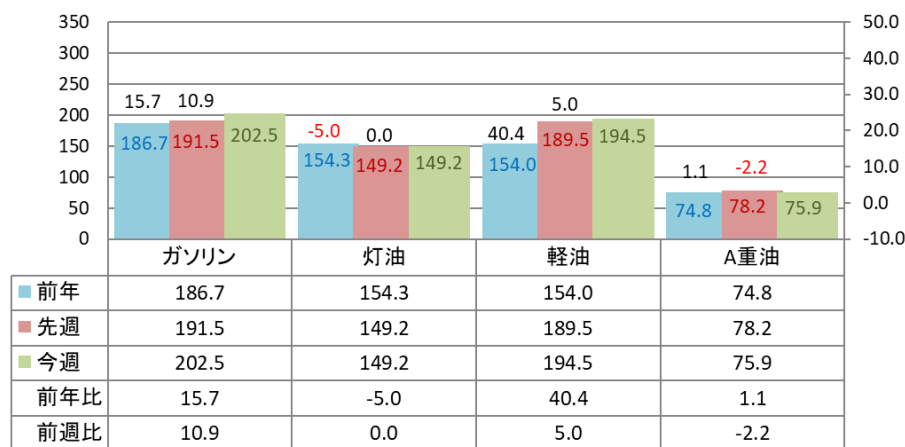
●19日、米欧主要国では、マスク着用義務の解除や営業規制の一段の緩和で、経済活動の正常化が進んでおり、これを手掛かりに一時WTI原油で約2カ月ぶりにドル67ドル台で取引されましたが、イランの核合意復帰をめぐる協議に大きな進展があったとの報道がきっかけとなり、制裁が解除されればイラン産原油が国際市場に流入し、需給が緩む可能性があるとの思惑から、相場は一時64ドル台前半まで急落しました。

●20日、アジア地域での新型コロナの感染拡大が深刻化する中でエネルギー需要見通しに再び警戒感が広がり、原油が売られました。また物価上昇に伴い、米連邦準備制度理事会(FRB)が早期に利上げに踏み切るのではないかと懸念が広がり、米株式相場が急落したことにつられて原油も売られました。EIAが発表した週間在庫統計で、原油在庫が前週比130万バレル増となったことも下落要因となりました。

5月21日 17:00現在 WTI原油 61.88ドル 為替 1ドル 108.65円

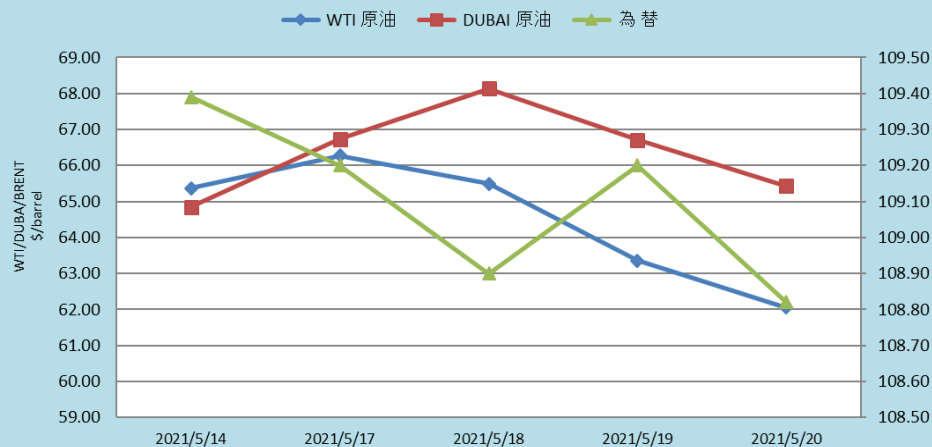
国内石油製品在庫 5月15日時点

単位:万KL



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位:円



次回元売変動予測

5/27～ 元売変動予測

ガソリン	➡	-0.5～±0
灯油	➡	-0.5～±0
軽油	➡	-0.5～±0
A重油	➡	-0.5～±0
LSA	➡	-0.5～±0

【製品卸価格】＜先物相場下落に国内市況も連れ安＞

＜今週＞今週の元売り仕切り改定はENEOS・コスモ石油が「-0.5円」、出光興産「±0」の改定でした。三社で改定は異なりましたが、市況は右肩下がりとなっています。先週末までは原油も上昇基調でしたので、月間リンクの玉を扱うディーラーも値下げには後ろ向きな対応で積極的な値下げは避けていましたが、原油相場の下げにより、油槽所玉も値下げに動いたため、月間リンク玉を中心に全国的に下げ気運が高まっています。

＜5月22日以降＞次回の元売り改定は、現状の原油コストで「-0.5円～±0円」の予測です。原油相場の動きが活発で先が見えない状況が続いていますが、足元の相場が下げに転じていますので、月内の元売り改定が上昇する可能性が無くなったことが契機となり、各社売りを強め、早急な枠の消化を進めています。全国的に緊急事態宣言や蔓延防止措置などにより人の移動が制限されているために出荷も芳しくなく、さらに相場を下げているようです。月内の市況の上昇には期待薄ではありますが、月間リンク玉の枠消化による市況改善を願うばかりです。

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】＜アンモニア燃料船の開発に新たに商船三井ら参画＞

昨年より、伊藤忠商事や今治造船、三井E&S(HD)子会社数社でアンモニアを燃料とする次世代船の共同開発が進んでいましたが、そこに新たに商船三井やシンガポールのパビリオン・エナジーと仏のトタルが加わりました。二酸化炭素(CO2)を排出しないアンモニア燃料船はまだ実用例はなく、すでに韓国ではサムスン重工業、中国でも大連船舶重工が開発に着手していることが発表されているために、いち早く開発を進めたいことから共同での開発が進んでいるようです。また今回の三社の参画により船舶燃料拠点のシンガポールで、国際海運の大型船にアンモニアを供給する仕組みをつくり、まずは大型船一隻に対し、年間2万トン程度を想定しています。商船三井の液化天然ガス(LNG)供給事業を展開するノウハウを活用し、アンモニア燃料の供給船や浮体式の貯蔵設備開発をすることとなり、パビリオン・エナジーとトタルは燃料供給網構築を行っていくことになっています。

出典: ①<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC175OV0X10C21A5000000/> ②<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO58650340Q0A430C2TJ1000/>

© 2021 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.